

外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）^{ジェミップ} 病院向けセミナーを東京・大阪にて開催

国際化社会における日本の医療サービス ～今、病院に求められるもの～

一般財団法人日本医療教育財団が認証機関として実施している外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）のセミナーが、10月に東京・大阪の2会場で開催された。『国際化社会における日本の医療サービス ～今、病院に求められるもの～』をテーマに、日本の医療機関における外国人患者の受入れに関する現状や問題点、医療機関での取り組み事例等を紹介する内容で、両会場とも本認証制度に対して関心を持つ病院の職員や関連団体の方々が多数参加し、講演に耳を傾けた。

10月27日の開催となった大阪では、秋晴れのなか、大阪駅に程近い毎日新聞ビル内のオーバルホールに、関西をはじめ様々な地域から参加者が訪れた。

講演では、はじめに厚生労働省医政局総務課課長補佐の坂上祐樹氏より、本認証制度が厚生労働省の支援事業として構築された背景と、国としての位置付けについて説明がなされ、医療機関・外国人患者に向けての、制度の周知・浸透の必要性が述べられた。

次に、本認証制度の推進協議会委員長である多摩大学・医療リスクマネジメントセンター教授の真野俊樹氏により、「日本の国際医療における現状と今後のあり方について」と題し、世界的に見た医療の国際化と、日本での国際医療交流に関する社会動向の現状が、豊富なデータ事例とともに解説され、日本の高度な医療を外国人患者が安心して受けることができる体制整備の必要性が示された。

日本医療教育財団の池田正明専務理事からは、制



度の内容説明として、外国人患者受入れに関する問題点やそれに対する取り組み例を交えた形で、制度の概要が述べられた。

休憩を挟んだ後半には、実際の病院の取り組みを紹介する特別講演として、九州大学病院・医療連携センター長の吉良潤一氏より、「国立大学病院における外国人患者受入れに関する取り組み」として、同病院が携わる国立大学病院医療連携ネットワークの発足と国際医療連携の動き、それによる実際の患者受入れ事例等が紹介された。

そして講演の最後には、日本医療教育財団認証事業課の石井雅典課長補佐より、本認証制度を受審する際にポイントとなる評価項目等の詳細な解説が行われ、病院が受審を検討するに当たっての実務的な情報が提供された。

集中して聴講する参加者の姿から、このテーマに対しての関心の高さが伺えた今回のセミナー。今後も、セミナー開催や学会への参加等を通し、本認証制度の周知が図られ、受審する病院も増加していくと見込まれる。



坂上 祐樹 氏



真野 俊樹 氏



吉良 潤一 氏



池田 正明 専務理事



石井 雅典 課長補佐